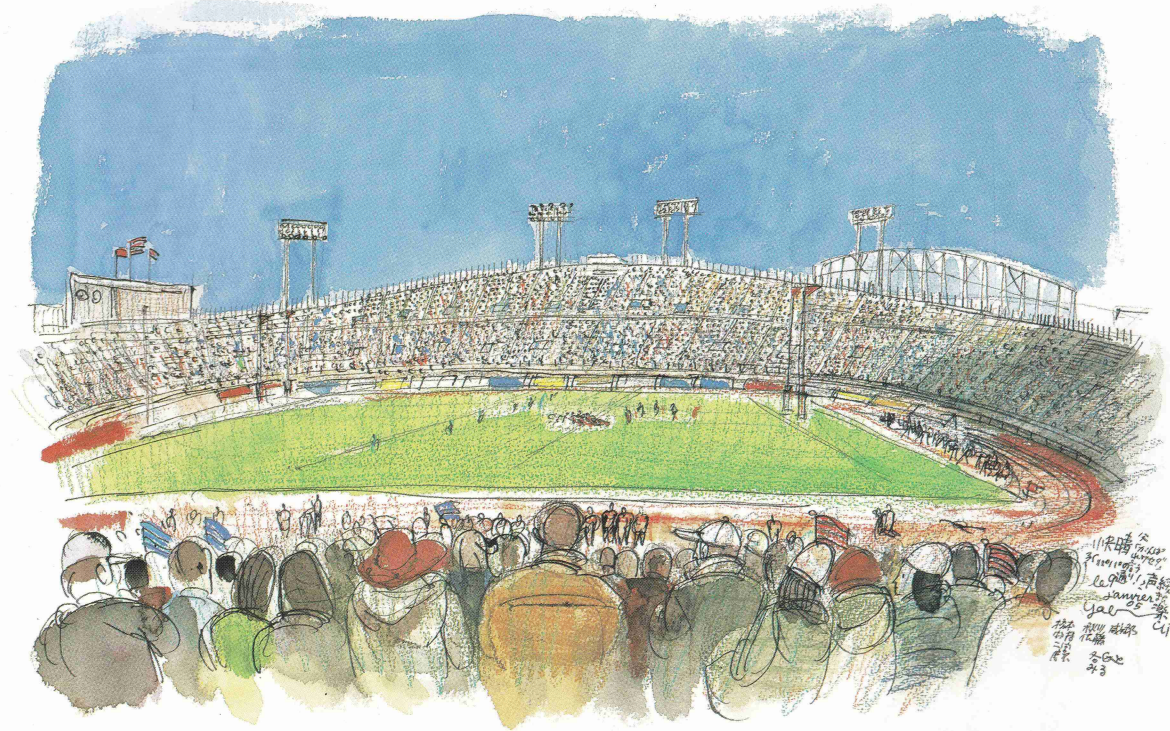


早稲田応用化学会報

Bulletin of The Society of Applied Chemistry
of Waseda University



No. 73
April 2006

目 次

春季号にむけて 里見応化会会長	1
2006年度応用化学会 総会・講演会・フォーラム2006	
「実践的ナノ化学」のご案内	2
応化ニュース 平沢 泉	2
活性化委員会便り「進捗状況の報告」 中川文博	3
広報委員会 平中勇三郎	3
交流委員会 田嶋喜助	4
応化会奨学金への募集のお願い 河村 宏	4
応化会関連記事	4
個人情報保護に関する基本方針	7
個人情報管理細則	8
会計管理に関する細則	11
都道府県別会員登録数について	14
応化会第3回フォーラム講演会	15
学生部会	18
受賞関連	19
同窓会報告	20
「会費自動支払制度」登録のお願い	24

春季号にむけて

里見応化会会長



昨年出された暖冬との長期予報に反して、新年早々記録的な大雪に見舞われた地域も広く、また残念な事に多数の被災者を出す結果となりました。現在の気象予報は大型コンピュータを用い、過去現在の地球規模のデータを最大限に活用し予測しますが、それを嘲笑うかの如く自然の気紛れに翻弄されている感があります。

一方、我が国の少子高齢化は今後の出生率が大きく変わらない限りに於いて、コンピュータ予測により極めて正確に進むものと考えられています。少子化の一例として、大学進学希望者と大学定員がほぼ拮抗する現在、数字上は希望者全員の入学が可能だそうです。団塊の時代に生を受けた者の一人として、隔世の感を禁じ得ません。

人間の欲望はマズロー(1908-70)の欲求五段説にある如く、先ず生理的欲求を求め、次に安定志向に代表される安全欲求に進むとされています。更には帰属意識に基づく親和欲求、人に認められたいとする自我・認知欲求に昇華され、最終的には自己実現欲求としての創造的自己成長を図りたいとするかなりハイレベルな域に達するそうです。

今の我が国の経済力からすると、一段と二段階に当たる、生きる為の基本的欲求はほぼ満たされているのではないのでしょうか。すると、若者が大学に期待するものは親和と自我欲求辺りにあるのではないかと想像したくなります。名門早稲田に入学する事が彼らの帰属意識を掻き立て、社会から価値ある存在として認められる事が彼らの欲求を満たす源泉になるのかも知れません。大学はそうしたニーズに応えなくてはならないでしょう。

しかし彼らの満足度をどの様に測定するかは、幾らスーパーコンピュータに頼ったとしても、結果は長期予報と同様、的確に当てることは難しいでしょう。帰属意識の視点からはパーソンtoパーソンの繋がりを含め、世代を超えて気軽に話し合える教育の場を創ることが望まれていると言えないのでしょうか。生意気な言い方ですが、教授と学生との立場を超えた、人間同士の信頼関係作りを目指すべきではないのでしょうか。これは会社組織内にも言える事です。幸い応用化学科の先生方は親身になって学生との交流に努めておられ、その意味でそうした雰囲気をもっと社会にPR出来ればよいと思うのは私だけではないと思います。応化会HPもそうしたPRに役立つよう、今後共、充実させて行かねばならないと考えます。

早稲田応用化学会として、今年は悩み多き学生の一助に資する目的で、ボランティア会員が中心となって(仮称)悩みの相談コーナーをHP上に設け、必要に応じて面談によるコミュニケーションを図る取り組みを企画中です。こうした取り組みは単に学生諸君に対するサービスと一方的に位置付けするのではなく、ボランティア会員の皆さんにとっても最高段階の創造的自己実現の場として活用して頂く事にもなるのではないかと考えます。

会の運営は現在、活性化委員会を中心としたボランティア会員で行っております。更に機能の充実化を図るために、会費納入のお願いと併せ、ボランティアの募集も継続的にしております。OB、OG諸氏におかれては、是非共に今後の企画実現にご協力頂きたく、紙面を借りてお願い申し上げます。

2006年度応用化学会 総会・講演会・フォーラム2006 「実践的ナノ化学」のご案内

拝啓 陽春の候 会員の皆様には、益々のご清栄のこととお喜び申し上げます。さて、定期総会開催の時期になりました。講演会では、高分子学会会長に就任される理工学術院 応用化学専攻 西出宏之教授にご講演をお願い致しました。また、昨年に引き続き総会前に、フォーラム2006「実践的ナノ化学」を開催し、最近の研究動向をポスター展示し、諸先輩方にご覧いただきたいと存じます。また会場にはコーヒースタロンも準備する予定ですので、OB会、同期会などにもご利用下さい。万障お繰り合わせの上、御参加下さいませようご案内申し上げます。

日時：2006年5月22日（月）14時30分～20時

場所：理工学部大久保校舎 55号館、62号館

<http://www.waseda.jp/jp/campus/index.html>

<http://www.waseda.jp/jp/campus/okubo.html>

●フォーラム2006「実践的ナノ化学」14時30分～17時

ポスター展示(55号館N棟1階大会議室)、

オープンラボラトリー (65号館)

●総会、講演会 (62号館W1階 大会議室)

16時30分～17時20分 総会

17時30分～18時30分 講演会「ラジカルポリマーのマジカルパワー」

早稲田大学 理工学術院 応化専攻 西出宏之 教授

●懇親会 (55号館N棟1階大会議室)

18時30分～20時：会費5000円

応化ニュース

早稲田大学は、2007年度に理工学部を「基幹理工学部」、「創造理工学部」、「先進理工学部」に拡充再編するが、このうち、先進理工学部には、生命医科学科が新設される。応用化学科からは、武岡真司教授（高分子）と、常田聡助教授（化学工学）が、生命医科学科に移籍し、研究教育活動を展開する。新設される生命医科学科は、東京女子医科大学のとなりに建設される若松町キャンパス（仮称：2008年4月より稼働予定）で活動を開始する。

また、本学は、スーパーCOE（先端科学と健康医療の融合拠点の設立：事務局長 逢坂教授）を中心に展開している学内の生命医療関連研究領域の研究者を集結し、同キャンパスに、生命医療系研究所を設立する計画である。ここで、東京女子医大とも連携し、新融合大学院を構築することを目指している。新たに生まれかわる早稲田大学の医学系への新展開に、移籍するお二人の活躍を祈念するとともに、応用化学科教員一同、ならびに応用化学会OB諸氏のサポート、応援をお願いする。詳細は、早稲田大学広報CAMPUS NOW 2・3号4～5ページをご参照ください。

（応化会 庶務理事 平沢 泉）

訃報

- 早稲田大学第10代総長(1970～78)で旧13回生の村井資長名誉教授が平成18年3月31日、肺炎でご逝去されました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。後日、お別れの会(5/10)が行われる予定です。なお、村井元総長は1990年に勲一等瑞宝章を受章されておられます。村井資長元総長の追悼文については、応化会報秋号に掲載致します。
- 早稲田大学理工学部応用化学科名誉教授 森田義郎先生は、かねて病氣療養中のところ、平成18年2月19日午前6時7分に、肺炎によりご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。なお、森田先生は1992年に勲三等瑞宝章を受章されておられます。森田義郎先生の追悼文については、応化会報秋号に掲載致します。

活性化委員会便り「進捗状況の報告」

活性化委員会委員長 中川文博

活性化委員会が発足してから1年半になろうとしていますが、ボランティアの皆さんの精力的な活動により、短期間に大きな成果が得られております。詳細は各委員会からの報告に譲りますが、私から概要を披露させていただきます。

- 1：応化会会員相互の絆を強化するため、経済基盤の確立と組織の強化があります。そのため、事務局業務の合理化・簡素化、会則・細則類の整備、また、評議員制度を実効あるものとするための方策を導入するなど、最終的には組織固めをしつつ会費納入率向上に連動するよう努力しております。
- 2：各分野で活躍されている著明なOBの講演会を実施し好評を得ていますが、講演後の懇親会も素晴らしく、この会を通して学生諸君との交流の輪が広がってきています。
- 3：この1年間のホームページ開設、オンライン更新システム、メールマガジン配信および会員情報管理システム開発などをはじめ、会員の皆様へ内容ある情報を早く伝え、会員相互の親近感を増していると確信しております。
- 4：募金につきましては皆様方のご理解により、目標を上方修正しておりますが、一人でも多くの学生を支援するため、更なるご協力をお願い申し上げます。

最後に、この活性化委員会活動をはじめてまだ日が浅く、新しく導入した諸方策が円滑に軌道にのるには時間を要するものもある中で、応化会組織と乖離せず、活性化を持続するには如何にすべきか、まだ検討中です。

広報委員会

広報委員会委員 平中勇三郎

会員情報管理システムの新設

応用化学会では、従来、会員情報は手書き会員名簿元帳により管理しておりましたが、数年前から、電子情報に置き換え（名簿管理ソフト「桐」）、パソコンにより管理を行ってきました。しかし、昨年、個人情報保護法が施行され、会員情報管理の厳格化が求められ、又、応用化学会としても会員に安心して会員情報を提供してもらうためにも、新たな「会員情報管理システム」の構築を行うこととなり、平成17年度に予算化されました。

広報委員会は、昨年9月より鋭意導入の準備を進めてきましたが、本年3月に試験運用へ着手、4月1日より本格運用を開始することとなりました。

新「会員情報管理システム」は、厳格なファイヤーウォールに守られた、専用サーバーに会員情報を収納し、会員情報の閲覧、更新は応化会事務局にあるパソコンから、応化会会長から許可された者のみが、認証キーを用いて行うこととなります。

又、HP上からの会員情報更新届けを本システムに組み込み、事務局が確認の上、迅速且つ正確に原簿に反映されることになります。専用サーバーは、管理委託先のオプトインターナショナル(株)つくばリサーチセンターに置かれ、事務局からのアクセスや、HPからの更新情報は暗号化されて送受信されます。

本「会員情報管理システム」の稼動により、個人情報漏洩防止と、会員情報の迅速な反映、事務局作業の軽減化が向上いたします。会員の皆様には安心して、最新の会員情報を提供していただきたくお願いいたします。

交流委員会

委員長 田嶋喜助

運営方針：応化会員である良さを実感できる機会を用意し、もって応化会興隆に寄与する。

講演会：昨年は3回実施。

本年皮切りは3/22（水）元安部球場跡の国際会議場にて“再生医工学”の話。

講師：岡野光夫氏は東京女子医大教授で先端生命医科学研究所長。2005江崎玲於奈賞受賞。

早大理工の変身となる融合大学院（早大・女子医大）2007年開設の一方の主役。

企業ガイダンスは継続。

18年度は学生に対する実践講座を開設する。

講師：綱島真氏で10-11月の応化演習講義として授業に組み込む。

氏は現在交流委員会委員であるが、多くの会社で実践講義の定評を得ている。

応化会奨学金への募金のお願い

応化会募金委員長 河村 宏

一昨年12月に募金活動を開始して以来、多くの方々のご協力を頂き、2月末現在350名の協力者を得て、募金総額：約1300万円に到達しました。

後輩への熱い思い入れに対し、衷心より御礼申し上げます。

3月末には詳細を応化会ホームページに掲載する予定です。又昨年末以来、各界でご活躍の方々へ、寄付依頼状を直接お送りしております。これも多大の成果を挙げておりますが、特に現役諸兄には格別のご協力をお願いします。

当初予定の募集期間は、後9ヶ月を残すのみとなりました。募金委員会一同は、協力者600名、募金総額1500万円以上を目指して最大限の努力を続けております。皆様のご理解とご協力を切にお願いいたします。又既にご協力を頂いた諸兄には、同窓生への啓蒙をお願いします。（平成18年2月26日記）

（お問い合わせは、応化会事務局小泉宗栄。電話03-3209-3211 内5253）

応化会関連記事

以下P14まで基盤強化委員会関連の記事です。

（1）第1回卒業年度別評議員会の開催（平成17年5月12日）

応用化学会の基盤と組織をよりしっかりさせる為、各卒業年度別評議員の皆様に応化会活性化の担い手としての活動をお願いすべく第1回の評議員会を開催した。55号館2階会議室に評議員20名の方々、清水学科主任、竜田先生、里見会長、中川活性化委員長を含む35名にお集まり頂き、3時間弱にわたり話し合いが持たれた。先ず会長、学科主任から応化会活性化活動の経緯と狙いについて、次いで活性化4委員会の各委員長より活動状況に関する説明が行われた。又、事前調査した年次別会費納入率、研究室同門会の活動状況や全評議員へのアンケート結果などの紹介と共に、基盤強化委員会から評議員の役割に関して、特に同期会のリーダーとして名簿の整備、懇親会の開催、会費納入の促進ほか、本会活動への具体的支援と協力のお願いがなされた。更に、竜田先生から理工学部の最近の話題紹介、出席評議員による意見交換、各会員への通信手段や個人々人への意識付けに係るアイデア紹介など午後9時過ぎまで熱心な議論が続き、今後毎年1回の開催を約して終会した。

(2) 第1回研究室同門会、学生会評議員会の開催（平成17年12月22日）

会則の改定に沿って卒業年度別評議員の増員策を推進する一方、研究室同門会ならびに学生会から新たに選出された評議員にお集まり頂き第1回の評議員会を開催した。年末の多忙な時期にも拘わらず研究室同門会から9名、学生会から10名の新評議員に加え、里見会長、清水学科主任、平沢先生、中川活性化委員長ほかの方々が出席された。会長の挨拶に引き続き、中川委員長から活性化委員会発足の経緯、4委員会の活動概要とその成果および各評議員へ会費納入率向上のための協力が依頼された。清水学科主任からは応化会の意義、メンバーの責務、連絡網整備の重要性など活力ある早稲田実現への要点が、又、柳澤基盤強化委員長から評議員の役割とお願いについて資料による説明があった。その後夕食をとりつつ和やかな雰囲気で見聞交換が始まり、学生諸君の発言を中心にして先輩諸兄の教訓、経験談や学校への要望事項など、同期の絆を深める為の前向きな会話が続いた。最後に事務局長から連絡事項の説明があり、平沢先生の締めで2時間半の会議を終えた。

(3) 評議員名簿一覧

①研究室同門会評議員

吉田・逢坂・本間研究室（会名：WECS）	府川 真（新40回）
山本・森田・菊地・松田・松方研究室（会名：早燃会）	町野 彰（新34回）
大坪・加藤・黒田・菅原研究室（会名：早稲田無機会）	黒田一幸（新24回）
酒井・小堀研究室（会名：稲酒会）	中西 光（新27回）
篠原・土田・西出・武岡研究室（会名：高研会）	山瀬幸雄（新24回）
豊倉・平沢研究室（会名：PMTの会）	山崎康夫（新31回）
平田・常田研究室（会名：平田・常田研OB会）	橘 正人（新38回）
武富・宇佐美・木野・桐村研究室（会名：TOHBI会）	桐村光太郎（新33回）
清水研究室	中島隆行（新43回）
竜田・細川研究室	細川誠二郎（教員）
石川研究室（会名：石川研同門会）	奥川 実（新11回）
城塚研究室（会名：城塚研OB・OG会）	尾上 薫（新26回）
宮崎研究室（会名：宮崎研同門会）	大橋秀仁（学外）
長谷川研究室（会名：長谷川研同門会）	長嶋則雄（新26回）
佐藤研究室（会名：στの会）	井上 健（新19回）

②学生会評議員（平成17年度）

修士2年	荻野真澄、庄司雅己
修士1年	藤本高義、萩原快朗
学士4年	丹藤文彰、福原佳樹、三浦克吉
学士3年	塚田孝高、米山依慶、若林隆太郎
学士2年	角野淳一、河北圭人、堀之内達也
学士1年	榊原孝記、重藤真由美、山鹿桐子

③卒業年度別評議員

（次頁の別表）

(4) 年度別会員名簿の送付とお願い（平成18年1月17日）

昨年の総会で承認された新しい会則に基づき卒業年度別評議員が増員され、又会員の最新情報を逐次CPU入力する体制により名簿の精度が向上したという実績に基づき、今回卒業年度別全評議員に対して当該卒業年度会員名簿を郵送しました。各評議員におかれましては選出された同

期の評議員と密接な連携をとり、この名簿を活用して同期会、懇親会を積極的に開催して頂き、各会員の最新情報を随時応化会事務局へ連絡下さるようお願い致します。

(5) 早稲田応用化学会 第2回評議員会の開催予定について

本年の評議員会は3分野全評議員にお集まり頂き、下記の日程で開催致します。近日中にご案内致しますので万障お繰り合わせの上ご出席下さい。

記

平成18年5月11日(木) 18:00~20:30

早稲田大学理工学部 55号館 N棟1階 大会議室

以上

年度別評議委員(兼務あり)

旧19	尾立 維恒	新14	河野 恭一	新29	高橋 豊彦	新43	小森 新一
旧22	栗山 秀弥	新15	有居 晃	新30	安達 博治		中島 隆行
	小場 豊次		桜井 博		飯田 一郎	新44	大塚 佐和子
旧23	種村 哲哉		古谷 敦		鷗木 正夫		前山 孝二
燃02	福士 三郎	新16	植木 彰	新31	鷗浦 博之		山本 七重
旧28	大原 定夫		遠藤 茂昭		久保 昭一	新45	青柳 里果
燃03	手嶋 精一	新17	石井 利典		保谷 尚登		木津 巧一
燃04	高宮 信夫		植村 政彦	新32	土肥 英幸		柴田 克亮
旧30	遠山 俊二郎		金子 四郎		横山 広幸	新46	五十嵐 崇訓
燃05	白崎 正彦	新18	金山 溢		吉岡 浩		今井 隆浩
旧31	有田 士朗		村岡 猛	新33	市川 修治		宍戸 かおり
燃06	赤林 宏	新19	井上 健		岡部 正明	新47	佐々木 康文
旧32	上田 忠雄		廣谷 修		岡部 豊		那須 育雅
燃07	藤田 耕平		星野 雄之輔		前川 敏彦		美里 賢史
新01	加藤 弘	新20	朝山 恒男	新34	荒木 重雄	新48	田中 正樹
	羽白 昌平		小柳 純夫		下村 啓		中谷 圭吾
新02	古平 通雄		竹林 ?矩		町野 彰	新49	岡戸 慶也
	堤 行正	新21	内田 洋	新35	浅沼 稔		丹羽 大介
新03	木邑 隆保		大井 寛		安達 昌文		山縣 伯彦
	島野 良雄		松本 孝一		柳澤 恒夫	新50	遠藤 文子
	村上 義八郎	新22	黒田 美雄	新36	相田 冬樹	新50	金井 勇治
新04	橋本 幸雄		柴田 実		井村 正寿		佐藤 裕崇
	村田 孝雄		三根 孝一		大森 美樹		吉江 幸子
新05	川島 利夫	新23	秋山 勤	新37	小笠原 啓一	新51	木野 はるか
	嶋根 政彦		有山 達郎		坂本 哲郎		蔵方 慎一
新06	川上 敏	新23	米原 祥友		馬部 健		栃原 平祐
	原 富啓	新24	秋宗 淑雄	新38	飯島 正俊	新52	三崎 正之
新07	徳本 明俊		松田 文彦		高野 直幸	新53	青木 映子
	牧野 貞夫		山崎 誠二郎		本田 淳		中野 裕子
新08	大矢 英男	新25	秋元 秀司	新39	種子島 宰		原 克実
	柳澤 亘		藤沢 一喜		丸山 洋一郎		細田 幸希
新09	小島 健正		山崎 隆史	新40	天谷 努	新55	松田 研
	並木 俊之助	新26	齋藤 哲次		上田 謙	新52	岡村 陽介
新10	野元 成晃		長谷川 清		中尾 啓輔		森 勇介
新11	小田 裕司		米田 潤三	新41	荻野 久美子		久保 暢宏
	松山 喜昭	新27	青沼 修司		竹下 隆顯	新54	荻野 真澄
新12	石橋 暉彦		永井 博彦		永田 勉		庄司 雅己
	平川 揚二		中嶋 慶八郎	新42	荒井 由高		森松 孝之
新13	下井 将惟	新28	池田 和正		市場 洋之	新55	城谷 幸助
	相馬 威宣	新29	内田 悟	新42	大迫 仁志		萩原 快朗
新14	小川 弘		加藤 雅之	新43	小倉 賢		藤本 高義

個人情報保護に関する基本方針

早稲田応用化学会（以下「本会」という）は個人情報保護についての関係法令を遵守し、本会会則の細則として以下の「個人情報保護に関する基本方針」およびこれに基づき別途「個人情報管理細則」を定め、保有する本会会員などの個人情報を保護することに努めます。

1. 利用目的の明示および目的外使用の禁止

会員などから提供された個人情報は以下の目的のために利用します。その他の目的に利用する場合は本人の同意を得た後、利用します。

- （１）会員への会報の送付・会費の払込案内・各種会合の開催案内、会員名簿への掲載と会員への送付およびその他本会から会員への連絡事項の送付
- （２）前項と同様な目的のため、理工学部応用化学科、本会の支部、本会の学生部会、各研究室同門会または同期会から要請され、庶務理事が認めた場合の提供

2. 第三者への開示および提供の禁止

会員などから提供される個人情報は、下記の場合を除いて、第三者への開示および提供はしません。

- （１）会員などからあらかじめ同意を得ている場合
- （２）会員の個人情報について照会があり、照会者が会員であることが確認された場合
- （３）個人情報保護についての関係法令および秘密保持の遵守を義務づける契約書を締結している外部委託先へ業務を委託する場合
- （４）法律に基づく命令などにより、個人情報の開示が求められた場合

ただし、上記（２）項において、事前に会員から文書による請求があった場合には、会員名簿掲載内容以外の個人情報について開示または提供をしません。

3. 個人情報の厳正かつ適切な管理

個人情報を正確かつ最新の状態に保ち、個人情報への不正なアクセスおよび個人情報の紛失・盗難・漏えいなどが発生しないよう、個人情報の保護のために適切な安全管理措置を講じます。

4. 継続的な改善

本「個人情報保護に関する基本方針」および別途定める「個人情報管理細則」の継続的な改善・向上に努めます。

5. ホームページ（ウェブサイト）におけるクッキーなど

本会で運営するホームページでは、内容の改良のためクッキーを使用することがありますが、このクッキーにより個人を特定できる情報を得ることはありません。また、アクセス状況についてログ（閲覧履歴）を取得していますが、ウェブサーバーの保守運用管理（不正メールの監視、障害監視と原因究明など）および閲覧履歴の統計処理のために利用しており、外部への漏えい防止など厳重な保護対策を実施します。

- （注）クッキーとは、ホームページにアクセスしたとき、ウェブサーバーからアクセス者のブラウザへ送信される小さなデータファイルのことで、再度アクセスした際に以前の利用状況をウェブサーバー側で識別できるようにするものです。ブラウザの設定によりクッキーの受取りを拒否することや、受け取ったときに警告を表示させることもできます。

6. 会員名簿への掲載停止請求

会員本人から文書による会員名簿への会員種別・卒業年次・氏名以外についての掲載停止（一部の掲載停止を含む）の請求があった場合は、以後の発行分から掲載を停止します。この請求がない場合は掲載を承諾しているとみなします。

7. 企業ガイダンス用に提供された個人情報の取扱い

学生会員のための企業ガイダンス用に限定して企業から提供された個人情報は、その目的以外には利用、開示および提供をしません。

平成17年11月17日制定

早稲田応用化学会
会長 里見 多一

個人情報管理細則

第1条（目的） この細則は、早稲田応用化学会（以下「本会」という）が管理する会員および関係者の個人情報の適正な取扱いに関する事項を定め、これらを保護することを目的とする。

第2条（定義） この細則において用いる用語の意味は次の通りとする。

1. 「個人情報」とは、本会が取り扱う会員および関係者に関する情報であって、氏名・現住所・勤務先・電話番号・電子メールアドレスなどの特定の個人を識別できるものをいう。
2. 「個人情報データベース等」とは、「個人情報」を含む情報の集合物であって、特定の個人情報を検索できるように体系的に構成したものをいう。
3. 「会員情報オンライン管理システム」とは、会員の「個人情報データベース等」を扱うコンピュータシステムで、会員が本会ホームページ（ウェブサイト）経由で本人情報を新規登録または訂正でき、一方、事務局からもオンラインで検索、登録または訂正できるものをいう。

第3条（基本原則） 個人情報が個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべきものであることに鑑み、本会は以下の基本原則に従い、個人情報の適正な取扱いに努める。

1. 個人情報は、その利用の目的を明確にするとともに、当該目的の達成に必要な範囲内で取り扱う。
2. 個人情報は、定められた場合を除き、第三者に開示または提供しない。
3. 個人情報は、適正な方法で取得する。
4. 個人情報は、その目的の達成に必要な範囲内で正確かつ最新の内容に保つ。
5. 個人情報の取扱いに当たっては、個人情報への不正なアクセスおよび個人情報の紛失・盗難・漏えいなどが発生しないよう、個人情報の保護のために適切な安全管理措置を講ずるよう配慮する。
6. 個人情報の取扱いに当たっては、本人が適切に関与し得るよう配慮する。

第4条（利用目的の限定） 個人情報は、以下のいずれかに該当する目的に限って利用できるものとし、当該目的の達成に必要な範囲に限るものとする。

1. 本会が行う各種事業の遂行のための、会員への会報の送付・会費の払込案内・各種会合の開催案内、会員名簿への掲載と会員への送付およびその他本会から会員への連絡事項の送付

2. 前項と同様な目的のために、理工学部応用化学科、本会の支部、本会の学生部会、研究室同門会または同期会から要請され、庶務理事が認めた場合の提供

第5条（第三者への開示および提供の禁止） 会員などより提供された個人情報は、下記の場合を除いて、第三者への開示および提供を禁止する。

1. 会員などからあらかじめ同意を得ている場合
2. 会員の個人情報について照会があり、照会者が会員であることが確認された場合
3. 個人情報保護についての関係法令および秘密保持の遵守を義務づける契約書を締結している外部委託先へ業務を委託する場合
4. 法律に基づく命令などにより、個人情報の開示が求められた場合
ただし、上記第2項において、事前に会員から文書による請求があった場合は、会員名簿掲載内容以外の個人情報について開示または提供を停止する。

第6条（適正な取得） 個人情報は、利用目的を明示した上で取得する。また、取得の方法は以下のいずれかとする。すでに取得している個人情報は、第4条の目的に利用できるものとする。

1. 本会が行う本人への問合せ
2. 本人または家族からの届出（郵便物、電話、ファックス、電子メール、本会ホームページまたは事務局への口頭による）
3. 理工学部応用化学科、本会支部、本会学生部会、研究室同門会または同期会の情報に基づく本会会員からの申告

第7条（正確性の確保） 前条によって取得した個人情報は、直ちに正確な更新を行い、常に最新の状態に保つ。

第8条（安全性の確保） 個人情報は、以下の方法により漏えい、滅失または毀損することのないようにする。

1. 個人情報を取り扱う者は、他者へ個人情報を漏らしてはならない。ただし、第4条に規定する利用目的および利用範囲に該当するとき、第10条に規定する会員名簿を会員へ閲覧させるときおよび第9条に規定する本人からの開示要求があったときはこの限りではない。
2. 会報などの送付を業者などへ委託するときは、必要最低限の情報提供に留めるとともに、業者などから「取扱いに関する誓約書」を提出させる。
3. 会員名簿を作成するために印刷業者へ個人情報を提供するときは、必要最低限の情報提供に留めるとともに、印刷業者と「秘密保持契約」を締結し、監督する。
4. 会員情報オンライン管理システムの運用に当たっては、外部からの不正アクセスを防ぐため適切なセキュリティ対策を講じる。ホームページの運営についても同様とする。
5. 会員情報オンライン管理システムの運用に当たっては、記録データが滅失またはき損することのないように配慮する。また、記録データは適切なバックアップを行い、滅失またはき損に対処できるように管理する。
6. 個人情報を含むあらゆる書類は、施錠のできる書棚に保管する。鍵の管理は事務局長が行う。保存期限経過後は確実に処分する。
7. 本会のコンピュータに保存された個人情報を含む記録データは、電子記録媒体に保存し、電子記録媒体は施錠のできる書棚に保管する。鍵の管理は事務局長が行う。
8. 本会のホームページウェブサーバーに保存された個人情報を含む記録データは、通信経路（ブラウザとサーバーとの間およびサーバーと転送先との間）でのセキュリティ対策として暗号化する。
9. 会員情報オンライン管理システムおよび本会のコンピュータに保存する個人情報データにつ

いては、あらかじめ本会会長または本会会長指名者の承認を得た者（以下「アクセス権限者」という）以外の者が、アクセスすることはできない。また、アクセス権限者に変更が生じた場合は、速やかに本会会長または本会会長指名者に届け出るものとする。

第9条（透明性の確保） 会員から本人に関する個人情報の開示要求があったときは、本会が記録している開示要求者に関するすべての情報を開示する。

第10条（会員名簿の取扱い） 本会が発行する会員名簿の取扱いは、以下に定める通りとする。

1. 会員名簿に掲載する個人情報は、会員種別、卒業年次、卒業研究室名、氏名（旧姓を含む）、自宅現住所、自宅電話番号、自宅ファックス番号、勤務先名称、勤務先所属、勤務先電話番号および勤務先ファックス番号とする。ただし、本人から文書により事務局に掲載停止の請求があったときは、会員種別、卒業年次、氏名のみを掲載するものとする。一部の掲載停止請求の場合はそれに従う。
2. 会員名簿は希望する会員に限って有償にて各1部配付する。ただし、広告掲載の企業に対しては、第4項の取扱いを要請した上で無償にて各1部配付する。
3. 会員名簿は会員および本会の事業に係る事務局業務担当者に限って閲覧できるものとする。
4. 会員名簿の配付を受けた者は、会員以外の他者へ掲載してある個人情報を漏らしてはならない。また、会員名簿を他者へ転売または譲渡もしくは複製してはならない。さらに、盗難防止に留意するとともに、不要になったときは発行者に返却するか、あるいは原形を留めないように処分しなければならない。
5. 会員名簿の配付先リストを作成するとともに製作部数、配付部数および残部数の記帳管理を行う。
6. 会員名簿に、本条の内容を掲載し個人情報保護の徹底を図る。

第11条（企業ガイダンス用に提供された個人情報の取扱い） 学生会員のための企業ガイダンス用に限定して企業から提供された個人情報は、その目的以外には利用、開示および提供を禁止する。

沿 革

制定：平成17年11月17日

個人情報保護の基本方針と細則制定の記事の補足

なお、会員から文書による個人情報の利用停止の請求があった場合は、次の取り扱いとします。希望の場合は事務局にその旨、郵便・ファックス・電子メールのいずれかでご連絡ください。

1. 会員名簿への掲載の停止

会員名簿には、会員種別・卒業年次・卒業研究室名・氏名（旧姓を含む）・自宅現住所・自宅電話番号・自宅ファックス番号・勤務先名称・勤務先所属・勤務先電話番号・勤務先ファックス番号が掲載されますが、会員種別・卒業年次・氏名以外の全部または一部の掲載を停止します。

2. 他の会員への開示または提供の停止

他の会員から照会に対して、名簿掲載内容以外の個人情報（電子メールアドレスが該当）の開示または提供を停止します。

会計管理に関する細則

第1章 総 則

第1条（目的）本細則は早稲田応用化学会（以下「本会」と称す）の会計管理について定め、以って本会の会計が健全に維持されることを目的とする。

第2章 会 費

第2条（会費）早稲田応用化学会会則（以下「会則」と称す）第4条に規定する会員は総会の議を経て決定する次の会費を納入しなければならない。

正会員、有志会員：年額3,000円
（ただし、銀行自動引き落としの場合は年額2,850円）

学生会員：年額1,500円

なお、会則第39条の規定に基づき対象者は会費の免除を受けることができる。

第3章 予 算

第3条（予算申請）

1. 予算を必要とする部署は必要とする予算を様式1「平成 年度早稲田応用化学会予算申請書」を以って事務局に提出する。なお、事務局に提出するに際して活性化委員会の各委員会が申請する予算は活性化委員長の、その他の申請予算はその予算を必要とする部署の業務を担当する理事の承認を得るものとする。
2. 事務局は予算申請書を取り纏め、予算案作成のための資料として会計理事に提出する。
3. 会計理事は必要に応じ申請者より申請内容について聴取するなどして、予算案を作成する。
4. 予算申請は毎年度末に行う。なお、原則的には年度中緊急に発生した支出は認めないが、万止むを得ない場合には申請を認めるものとする。ただし、この場合第4条に規定する役員会は電子メールなどによる審議も可とし、また第5条規定の承認は各役員の合意を得た後会長がするものとする。

第4条（予算案の提案）

1. 会計理事は予算案を役員会に提案し審議を経て、総会に提案する予算案を作成する。
2. 予算案として役員会に提出する資料は「x

x x 年度予算案」（参考：様式例4）および前年度期末の「貸借対照表」（参考：様式例3）とする。

第5条（予算の審議・承認）会計理事は役員会で承認された予算案を総会に提案し審議を経て、承認を受ける。ただし、4月1日より総会にて予算が承認されるまでの間は人件費、交通費、会議費、事務用品費等応用化学会の運営上支障が出るものの支出に限り実施してよいものとする。

なお、上記以外の緊急に発生した支出は認めないが、万止むを得ない場合は第3条第4項の規定を適用する。

第4章 予算の執行

第6条（予算執行）承認された予算を執行する際の請求者は当該予算を請求した部署とする。

第7条（予算執行の承認）第6条の予算執行の請求に対し会計理事は検討の上、承認を与える。ただし、1件300,000円未満のものについてはこの承認を必要とはしない。

第8条（運営資金よりの立替）予算上想定した収入に遅れが生じ支出に支障が発生した場合、会計理事の承認を得て運営資金より一時的に立替払いが出来るものとする。

第9条（予備費の使用）予備費を使用する際は会計理事の承認を必要とする。

第5章 予算管理

第10条（予算の管理）

1. 事務局は収支が発生した都度その内容に応じ、科目（購入品名など）および金額を予算区分ごとに現金出納帳および預・貯金出し入れ帳の双方または何れかに記載する。
2. 予算を執行した部署はその代金の支払が完了した時点で、領収書を添え事務局に報告する。ただし、領収書が直接事務局に提出された場合は、報告のみとする。事務局は領収書を7年間保管する。
3. 事務局は、四半期ごとに預金残高と現金との残高が現金出納帳と預・貯金出し入れ帳と

の残高と一致していることを確認の上、予算区分ごとの執行状況を纏め、翌月の10日までに速報的に役員、活性化委員会委員長、活性化委員会各委員長に報告する。

第6章 決 算

第11条（決算案作成のための資料の作成）

1. 年度が終了した時点で監事の監査を受ける。
2. 決算案は会計理事が作成し、役員会に提案し審議を経て、総会に提案する決算案を作成する。
3. 決算案として役員会に提出する資料は「x x x 年度収支決算表」（参考：様式例1）、増減明細表（参考：様式例2）および当該年度期末の「貸借対照表」（参考：様式例3）とする。

第12条（決算案の審議・承認）会計理事は役員会で承認された決算案を総会に提案し審議を経て、承認を受ける。

第7章 官庁への届け出

第13条(官庁への届け出)源泉徴収税の支払、当会の会長および事務局長の氏名などの必要な届け出は事務局が担当し、会長、庶務理事、会計理事の承認を得て新宿税務署に届け出る。

附 則

本細則は平成17年11月17日より施行する。

様式1

平成 年度早稲田応用化学会予算申請書

申請部署名

1. 予算の名称
2. 予算の目的
3. 予算の内容（購入品目ごとの使用目的、価格など）
4. 申請予算総額

様式例1

200X年度収支決算表

（自 200X年4月1日 至 200Y年3月31日）

収 入			支 出		
科 目	予算額	決算額	科 目	予算額	決算額
前年度繰越金	3,785,214	3,785,214	会報費	3,000,000	1,648,202
正有志会員会費*1	6,300,000	6,301,500	名簿作成費	3,000,000	3,173,333
学生会員会費*2	1,300,000	1,222,500	集会費	300,000	314,386
寄付金	0	450	学生会部会費	130,000	120,000
利息	5,000	4,211	調査連絡費	0	0
名簿発行費助金	600,000	1,110,000	集金費	160,000	162,909
雑収入	0	384,000	支部費	150,000	0
運営資金取り崩し	0	0	用品費	100,000	204,350
名簿刊行積立金取り崩し	0	0	事務費	4,300,000	4,328,873
			雑費	50,000	17,080
			活性化費	500,000	753,270
			運営資金繰入れ	0	0
			名簿刊行積立金	0	800,000
			予備費	0	500,000
			次期繰越金	300,214	785,472
（合 計）	11,990,214	12,807,875	（合 計）	11,990,214	12,807,875
*1 当期入金総額	6,408,000 円				
内預り金へ振替	(+813,000 円)				
前期預り金取り崩し	706,500 円				
当期正有志会員会費	6,301,500 円				
*2 当期入金総額	1,191,000 円				
内預り金へ振替	(+706,500 円)				
前期預り金取り崩し	738,000 円				
当期学生会員会費	1,222,500 円				

様式例 2

増減明細表
(200Y年3月31日現在)

正有志会員会費預り金	
前期末預り金	900,000
当期預り金	813,000
当期預り金取り崩し	(-)706,500
当期末預り金	1,006,500
学生会員会費預り金	
前期末預り金	2,800,000
当期預り金	706,500
当期預り金取り崩し	(-)738,000
当期末預り金	2,768,500
運営資金	
前期末運営資金	6,970,000
当期繰入れ運営資金	0
当期運営資金取り崩し	(-)0
当期末運営資金	6,970,000
名簿刊行積立金	
前期末名簿刊行積立金	1,050,000
当期繰入れ名簿刊行積立金	0
当期名簿刊行積立金取り崩し	(-)0
当期末名簿刊行積立金	1,050,000

様式例 4

200Y年度予算案
(自 200Y年4月1日 至 200Z年3月31日)

取 入			支 出		
摘 要	金 額	2004 年度実績	摘 要	金 額	2004 年度実績
前年度繰越金	1,173,722	3,785,214	会報費	3,000,000	1,648,202
正有志会員会費	5,800,000	6,301,500	名簿作成費	0	3,173,333
学生会員会費	1,100,000	1,222,500	集会費	300,000	314,386
寄付金	0	450	学生部会費*1	250,000	120,000
利息	5,000	4,211	調査連絡費	100,000	0
名簿発行費助金	0	1,110,000	集金費	200,000	162,909
雑収入	621,278	384,000	支那費	150,000	0
運営資金取り崩し	4,000,000	0	用品費	100,000	204,350
			事務費	4,300,000	4,328,873
			雑費	1,030,000	17,080
			活性化費*2	2,562,520	753,270
			運営資金繰入れ	0	0
			名簿刊行積立金	0	800,000
			予備費	500,000	0
			次期繰越金	207,480	1,285,472
(合 計)	12,700,000	12,807,875	(合 計)	12,700,000	12,807,875

*1 新入生オリエンテーションへの補助 150,000 円を含む

*2 広報委員会：1,462,520 円、基盤強化委員会：500,000 円、

交流委員会：500,000 円、募金委員会：100,000 円

貸借対照表

(200Y年3月31日現在)

借 方		貸 方	
摘 要	金 額	摘 要	金 額
現金	428,433	運営資金	6,970,000
郵便振替	128,250	基 金	1,890,000
銀行普通預金（利息）	293,767	名簿刊行積立金	1,050,000
銀行普通預金	263,286	正有志会員前納会費預り金	1,006,500
銀行定期預金	9,770,233	学生会員前納会費預り金	2,768,500
郵便貯金定期預金	4,001,283	所得税預り金	26,530
		次期繰越金	1,117,722
(合 計)	14,885,252	(合 計)	14,885,252

都道府県別会員登録数について

基盤強化委員会では、会員住所録の整備をこの一年かけて実施してきましたが、このデータを元に地域別応化会組織化の参考になるのではとの思いから、会員の都道府県別登録者数の実態を調査してみました。

その結果、逝去者、住所不明者を除いた住所登録済み会員（学生会員を含む）5,718人の実体は、下記の通り首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉の4都県）に実に77%の方が居住されていることを確認しました。

この首都圏を主体に活性化委員会・交流委員会が講演会の開催など活動を行っていますが、例えば関西地区や中京地区などに居住されている方々で地域ごとの応化会活動を計画される場合など、当該地域の住所録を提供することが可能となってきましたので、必要な方は応化会事務局にお問い合わせください。

早稲田応用化学会
平成 18 年 2 月現在

都道府県別会員登録数（住所登録者）

都道府県名	会員数	%	新 20 以前の 会員数(内数)	都道府県名	会員数	%	新 20 以前の 会員数(内数)
北海道	19	0.3%	4	滋賀県	23	0.4%	6
青森県	7	0.1%	3	京都府	24	0.4%	9
岩手県	3	0.1%	0	大阪府	126	2.2%	39
宮城県	13	0.2%	2	兵庫県	100	1.7%	27
秋田県	7	0.1%	1	奈良県	18	0.3%	8
山形県	7	0.1%	2	和歌山県	13	0.2%	2
福島県	35	0.6%	5	鳥取県	7	0.1%	4
茨城県	152	2.7%	36	島根県	3	0.1%	0
栃木県	43	0.8%	7	岡山県	38	0.7%	9
群馬県	49	0.9%	15	広島県	20	0.3%	2
埼玉県	554	9.7%	156	山口県	7	0.1%	0
千葉県	578	10.1%	192	徳島県	7	0.1%	0
東京都	1,965	34.4%	707	香川県	39	0.7%	15
神奈川県	1,313	23.0%	476	愛媛県	23	0.4%	3
山梨県	13	0.2%	5	高知県	4	0.1%	3
長野県	40	0.7%	5	福岡県	42	0.7%	12
新潟県	24	0.4%	6	佐賀県	9	0.2%	2
富山県	32	0.6%	5	長崎県	2	0.0%	1
石川県	11	0.2%	1	熊本県	4	0.1%	1
福井県	7	0.1%	1	大分県	11	0.2%	1
岐阜県	19	0.3%	3	宮崎県	9	0.2%	0
静岡県	119	2.1%	42	鹿児島県	8	0.1%	0
愛知県	131	2.3%	27	沖縄県	4	0.1%	1
三重県	36	0.6%	6				

住所登録会員数 5,718 （逝去者及び住所不明者を除く。学生会員を含む）

新 20 回卒以前の会員数 1,852 「調査・集計担当：基盤強化委員会 森 啓」

活性化活動開始以来、皆様方のご支援の下活動を展開して参りました。その内、会費納入率向上に対する活動と会員皆さんの住所録整備に特に力を入れて参りました。この二つは応用化学会活動を支える根幹をなすものであることは申すまでもありません。その結果、会費納入率に向上の兆しが見え始めました。一方、住所録整備については卒業直後の勤務地、またはその後の転勤先の連絡を頂けなかったことにより、住所不明となってしまった方を多く見受けます。会員の皆様には確実に会費をお納めくださること、および転居の際は速やかに新しい住所を事務局まで電話、FAX、電子メールで連絡を頂きますようお願い致します。なお、本年4月より、インターネット環境をお持ちの方は、応用化学会HPを用いて自ら変更・修正申告が可能となりますのでご利用ください。

また、当会では個人情報保護に関する細則を定め、これが保護に努めておりますことを申し添えます。

—有機ELの展望と地域活性化—

城戸 淳二



昨年11月21日早稲田応用化学会主催の第三回講演会において「有機ELの展望と地域活性化」の演題で行った講演の概要をまとめた。

I 有機ELの展望

ある種のポリマーは電気を流すことは25年以上前に分かっていたので有機物に電圧をかけて光らせる研究は以前から続けられていたが1987年にAl系錯体を使って短い時間ではあるが「有機物を光らせる」ことに成功し論文が発表された。

それ以降、材料、デバイス化、量産技術の研究が重ねられてきたが、現在では波長によっては10万時間を越える寿命をもつ有機EL(Electro Luminescence)材も開発されている。更に長寿命化を目指して多層化(タンデム化によるマルチフォトン素子)の開発、発光効率を上げるべく蛍光から燐光材の開発、量産化技術の開発等が進んでいる。その結果ディスプレイ類への利用が可能になり有機ELにとって明るい未来が展望されつつある。

(A) 薄型ディスプレイへの展開

現在のディスプレイはテレビ、パソコン、携帯電話、PDA、デジタルカメラ、車載パネルと多いが、それらはブラウン管、液晶、プラズマ等の市場となっている。そのなかで有機ELによるディスプレイは携帯電話や車載パネル用に一部実用化され使用されつつあるが、ソニーで24"、セイコーエプソンでは40"の試作品も発表されており長寿命化が可能になってきたので

次世代のディスプレイ技術の本命と目される様になってきた。特に有機ELディスプレイは競合すると思われる液晶、プラズマディスプレイに比較して優れた特性を持っていることから、最近注目され、市場で大きく伸びている大型の薄型フラットディスプレイ(主にTV)分野ではその有利性が注目されている。有機ELと液晶、プラズマ比較を項目別に比較しまとめると表の如くなり、多少の身最良はあると思うがあらゆる項目でその優位性は認められる。

	液晶	PDP	有機EL
消費電力	○	×	◎
応答時間	△	○	○
大型化	△	○	◎
視野角	△	○	○
寿命	○	△	○
フルカラー	○	○	○
コスト	△	△	○

プラズマディスプレイは現在では大型ディスプレイに限られており将来的にも小型ディスプレイに向かない技術と考えられているので、ここでは特にディスプレイの殆どの分野で競合すると思われる液晶との比較をしてみると、

(イ) 消費電力は有機ELは非常に少なく、今後大きな環境問題化する省エネ対策面では有利である。(ロ) 応答速度では液晶はかなり問題がある。液晶の応答速度は有機ELに比べかなり遅く(1000倍近く遅い)そのため動きの速い画面では残像が気になる。(ハ) 大型化に関してはコスト面との関連があるが、液晶は実用と

しては60"位が限界であり、これに比べ有機ELは印刷方式の開発等によっては200"位間迄の超大型でも可能性が大きい。(二) 視野角でも液晶は斜めからは大変見づらくなる。有機ELでは斜めから見ても正面から見る場合と全く変わらない。(ホ) コスト面では液晶ディスプレイはパネルに使用される部品類が有機ELの約2倍で、このことは将来のコストダウンに大きな障害となると考えられる。表にはないがその他の面では(ヘ) 薄型化と重量で液晶は自発光ではないためバックライトが必要となり、又2枚のガラスで液晶をサンドイッチすることからどうしても厚くなってしまふ。重量でも40"で40kg位になりもはや壁掛けテレビとは言えない。その点有機ELでは極端な場合、ペラペラのフィルムでディスプレイ化することも可能であり、非常に軽量化が出来、薄型化ができる。更に画質であるが、液晶では輝度が低く、有機EL程のコントラストが得られないので真白から真黒までのグラデーションの表現がかなり見劣りし画面の見易さに於いて有機ELの方が優れている。以上の様にその特性から考えてディスプレイ分野における将来性は非常にあると思われる。

それでは実際は何年頃から有機ELディスプレイを使用したテレビが世に出るのかというと、現在考えられている技術ロードマップからは2007年度には中型クラス、2008～2009年には大型クラスが発売されると考えている。

そのためには現在使われている有機ELの真空蒸着法が点蒸着から線蒸着に変えるための大型リニアソース蒸着機の開発が待たれている。

(B) 照明への展開

現在照明として使用されているものでは蛍光灯が圧倒的に多いが、蛍光灯には水銀が使われており、将来環境上大きな問題となると思われる。有機ELによる照明パネル化は10年前に私の研究室で白色有機EL素子の開発に成功しサイエンス誌上に発表し大きなセンセーションを起こした。それ以来アメリカのGEを始め多くの照明メーカーが実用化の研究開発に取り組んでいるので、近い将来蛍光灯に代わる有機ELによる照明パネルが出てくると考えている。蛍光灯に変わる照明としてはLEDが既にあるが、LEDは粒状でありスポットライトかダウンライトとしては向いているが薄型で面状の光源と

しては有機ELのパネルが使われるようになると考えている。又将来的には消費電力が蛍光灯の1/2程度まで下げられると考えられており省エネルギー効果が大きいと期待される。そうすると有機EL照明が普及すれば国内消費電力の37%が削減されると試算されている。又フィルム化した照明パネルの発達の可能性も大なので建物のアールに沿った照明も出来る様になる。

照明の場合は1パネル当りの価格は安くなるがテレビ等のディスプレイに比し使用量のはるか多くなる。それだけに高効率化と低コスト化が必要となるが、市場としての魅力は非常に大きい。

Ⅱ 先端技術は何故韓国、台湾に追い抜かれたのか、有機ELの場合はどうか

今現在有機ELの分野では技術的に圧倒的に日本が世界をリードしている。しかしながら韓国は既に多くの研究投資と人材を配置しており日本を追いかける体制が整いつつある。

今迄の例だと半導体のメモリーや液晶ディスプレイのようにかつては日本が圧倒的に優れた技術を有していたものが、韓国、台湾にどんどん追い抜かれてしまった。このままだと将来性の豊かな有機ELの分野でも同様の事が起こりかねないと危惧されている。せっかく日本の国内で研究開発し実用化に市場を立ち上げて結局は技術力で日本に勝っているとも思えない外国にシェアをとられてしまうというのではなさない。液晶のケースでみると最初は100%であった国内生産はどんどん低下して今では30%を下回っている。韓国や台湾で彼らが使っている材料も種々の部品も量産のための製造装置もほとんど日本製であり、パネル化の技術も日本から行き、技術者も日本の企業を辞めて彼の地で指導をしている。従って彼等の技術力が日本より優れているわけではないのに市場では負けてしまったのはなぜか。原因は経営の問題にあると言える。

液晶は基板サイズでみると現在第6～第7世代に入っており、韓国では第8世代への準備が始まっている。この間一世代ごとの製造ラインへの投資は1000億円を超えていることが多い。それが1～2年のサイクルで続けられてきた。そうでないと多面取り、大型化に対応したコストダウン競争に勝ち残れなかった。景気の変動や

市場の伸びが順調でないときに逡巡して一旦投資を怠ると、その世代でのコスト競争で負けてしまう。日本の企業では状況の厳しいときに1000億円を超える投資を社運をかけてでも決断出来る様な経営者はなかなかいない。韓国や台湾の企業はオーナー経営であるからその決断ができた。日本ではシャープだけが何とか頑張っているが、その他の電機メーカーは液晶パネルの製造をあきらめるか、製造をしていても赤字の状態である。従って今後も1000億円の投資を続けてゆくことは不可能であるどころか現在保有している肝心の技術力も低下したり、分散してしまう。それが液晶のパネル製造で日本が抜かれた理由であって、経営トップの経営姿勢が全ての原因であると言える。更にもう1つの問題として国の先端技術に対する支援に日本と韓国、台湾、中国との間に大きな差がある。例えば日本は法人税が非常に高いが、彼等は逆に税の優遇処置がある。

Ⅲ 技術・製造の垂直結合と日本式産業連携の採用—地域活性化としての山形有機エレクトロニクスバレー構想

日本で成功しているトヨタ等の自動車産業を見るとグループ内で部品の生産をおこなっている。ディスプレイ分野でも液晶分野のシャープ、プラズマ分野の松下が材料、パネル化技術、製造装置と関係会社を含めて自分達で一貫してやるべく努力して成功している。

もし外部からの調達によるウエイトが高くなるとコストダウンへの対応が難しくなる。従って技術、材料、生産を垂直に統合することが出来れば強い体制を維持することが可能になると思う。有機EL分野では幸い今のところ材料メーカー・パネル製造メーカー・量産製造メーカーと全部国内に揃っており垂直結合モデルをつくって上手く連携をとってゆけば絶対外国に負けない産業として成長することが出来る筈である。もし有機EL産業に携わる各企業や研究部門がバラバラだと半導体・液晶の二の舞になってしまう恐れがある。そこで山形大学が中心となって日本式産学官連携の組織を作って既に活動を開始している。これが山形有機エレクトロニクスバレー構想である。

日本ではこのようなプロジェクトに対して国からの援助は少なく又経済産業省と文部省との連携も全く期待できないので、山形県から43億円

/7年間の予算をもらいスタートしている。まず米沢の山形大学の側に有機エレクトロニクス研究所をつくり、そこに大企業からだけでなく中小企業も参加した共同経営体を構成した。中小企業からの参加は日本の産業を支えた物づくりの現場は中小企業が多いからであり、企業の大小でなく技術を持っている会社の参画をめざした。この共同研究は有機ELを中心とした有機半導体デバイスの研究開発であるが、基礎研究だけでなく実用化に向けて如何に安く製造するかという量産プロセスの開発による商品化までも研究内容としている。前項で述べた照明に関しても照明用有機ELの開発、実用化テーマも含まれている。

有機エレクトロニクスバレーの立地条件としては山形県米沢市は大変恵まれている。これは米沢近辺でディスプレイ関連の工場や中小企業が多く精密加工技術や実装技術のレベルが非常に高い。したがって量産化のための装置の開発も有利に進めることが出来る。そうして有機エレクトロニクス研究所が中心となって山形県内の企業の力をまとめることが出来れば、革新的な量産装置をつくってコストの安い製品を作り出すと同時に、材料、部品から製造装置までの垂直統合モデルが出来、いずれ大企業の工場も集まってきて地域活性化につながるものと確信している。他県にもバレー構想はあるがいずれも工場誘致から始めており山形の場合とは順序が逆である。また基本的に国の予算でなく県の予算で運営されており、県が自腹を切って研究開発を進めている全国唯一のバレーである。有名なアメリカのシリコンバレーはスタンフォード大学の研究成果からスタートした技術発信型であるが、その意味でも山形大学、山形有機エレクトロニクス研究所を中心とした技術発信型のバレー構想という面でも他のバレーとは大きな違いがある。



2005/11/4（金）～11/6（日）に第52回理工展が行われ、学生部会が出展致しました。

理工展への出展は例年学生部会の一大イベントとなっており、今年も応用化学科の学部1年から3年で構成される学生部会が、半年の準備期間をかけて本番に臨みました。今年の企画はお客様に化学を実際に「体験」して頂くことを目標とし、その想いを「Chemi-Story～化学の世界にふれてみよう～」という企画タイトルに込めました。

理工展に来場された方々に、どうやったら化学を面白く、かつ分かりやすく伝えることができるか…。学生部会の総勢43名のメンバーは各々の知識とアイデアを最大限に動員し、討論を続けました。そのかいあって、理工展本番には多くの粒ぞろいの企画を出展する事ができました。

理工展に出展したそれらの企画について、簡単な説明をさせていただきます。

1) 映像作品上映

社会問題となっているアスベストについて、映像を交えたわかりやすい説明を行いました。また、応用化学科の学生生活をリアルに紹介する映像を上映しました。

（アスベスト徹底解説ムービー／応用化学科学生生活紹介）

2) 実験体験と工作コーナー

人が入れる巨大なシャボン玉を作って実際にお客様に中に入って頂き、その場で写真撮影を行い、撮った写真を差し上げるサービスも好評でした。また、液体窒素を使った-196℃という極低温の世界の不思議な現象を体験して頂いたり、スーパーボールやDNAの形をしたストラップを実際に作って頂いたりしました。その他にも、来場者の方々が実際に参加できる多数の実験を行いました。

（液体窒素で-196℃を体感／過冷却水／炭素電池／巨大シャボン玉／ペーパークロマトグラフィ／卵の殻を溶かしてみる／空気砲／DNA型のストラップ作り／スーパーボールを作ろう）

3) 見てよく分かる化学のはなし

実験を多数交えたプレゼンテーションで、身近にある化学をわかりやすく実感して頂きました。例えば、豆腐のできるしくみを実際にその場で作った豆腐を試食して頂きながら説明したり、ダイエットコーラと普通のコーラの違いを、試飲を交えて紹介したり、洗濯で洋服がきれいになるしくみを、実験を交えて説明したりしました。

（手作りおとうふ／Diet coke vs Coca-Cola／洗たくのしくみ／"ppm"を体感してみよう）





4) 応用化学科紹介

応用化学科の関係する研究分野について紹介しました。学生部会のメンバーに、来場された方が応用化学科について積極的に質問をして頂く場面も見られました。

5) 自慢の屋台

フランクフルト、ミネストローネ、チュロス販売しました。手間ひまかけたかいあって、来場された方々に大変好評を頂き、全て完売致しました。

本年度の理工展は昨年を上回る来場者数を記録し、大変な盛り上がりを見せました。当日は学生部会も大忙しで、全員がフル回転。昼ご飯を食べる時間も惜しいほどでした。

今回の理工展に来場していただいた方は楽しんでいただけたでしょうか？ また、残念ながら今年の理工展に来る事ができなかった方もいらっしゃると思います。

来年もより一層の素晴らしい企画を用意して、学生部会一同、皆様のご来場をお待ちしております。

受賞関連

平成18年度表面技術協会技術賞受賞 受賞題目「高密度用超小型磁気ヘッドの開発研究と実用化」



逢坂哲彌教授

逢坂哲彌先生は、研究代表者として日本電気株式会社および富士通株式会社と共同で進めてこられた「高密度用超小型磁気ヘッドの開発研究と実用化」が高く評価され、この度、共同研究者の方々とともに、平成18年度表面技術協会技術賞を受賞されました。逢坂先生は“めっき”という電気化学的プロセスの研究を永年にわたり牽引されており、その中で高飽和磁束密度を有するCoNiFe軟磁性薄膜の作製法を確立されました。その成果は英Nature誌に掲載され、学術的に大きなインパクトを与え、磁性材料の開発研究におけるトレンドを築き上げるに至っております。さらに、この基礎研究を発展させるべく、前二社と共同でハードディスクドライブ用磁気ヘッド素子としての開発を進め、実用化を果たされました。これは、大学発の基礎研究を実用化まで繋げた産学連携のモデルケースとして高い関心を集めております。このように、学術的にも工業的にも先生は多大な貢献をされており、今後の先生の研究の進展がより一層期待されています。先生のご受賞を心よりお祝い申し上げます。(文責：応化教授 本間敬之)

同窓会報告

応化36年卒同期会



「応化36年卒同期会」を平成17年11月11日に開催しました。

平成17年11月11日（金）、秋の気配深まる東京「新日鉱グループ六本木クラブ」で、我々36年卒（新制11回）の同期会を開催しました。はや、卒業44年にあたります。

この会は2年毎に開いていますが、今回は、71名の現会員中、遠くアメリカや九州在住の級友も含め、43名が参集し、賑やかに会食・懇談し、旧交を温めることができました。

しかし、この2年の間に、安西輝男君と永島道男君を失い、はじめに、両君を偲んで出席者一同黙祷をささげ、一抹の寂しさも感じました。

各自の近況報告を中心に会を進めましたが、我々の仲間もほとんど現役の仕事をはなれ、趣味の世界やボランティアの活動をするようになり、ますます、母校早稲田の友人が身近に感じられるようになりました。囲碁同好会「ウロウロ会」、ゴルフ同好会「わくわく会」、「早稲田スポーツを応援する会」など趣味の会をつくり、夫々活発に集まり、そのあとの懇親会も楽しんでます。また、近くの仲間同士で飲み会を催したりしています。

「お互い元気で、人生をエンジョイし、少しだけ（？）世の中のためにも貢献しよう」と、そんな気持ちを確かめ合い、また2年後の再会を誓い、グリークラブOBの小柴英昭君の指揮で、「都の西北」を歌って散会しました。

（平成18年2月 文責： 岩井義昌）

昭和38年卒同期会昭和38年（新13回生）応用化学科卒同期会

毎年開催している同期会を本年も例年どおり歳の瀬の迫るまえ、11月18日（金）に開催した。幹事の企画は、参加者全員が老齢年金の貰える年となったことを機会に『これからどうやって時間をつぶすか、熟年離婚を避けるノウハウ等の情報交換を行う』こととした。開催場所は、過去8年ほど続けている東京ステーションホテルで、生存している卒業生73名中21名（下記参照）が集った。

最初に清水功雄主任教授から目下大きな変革が行われている応用化学科の近況をお話いただき、現役の力強い話に刺激を受けたためか、参加者諸氏は楽隠居どころでない熱気に溢れ、多方面で活躍している話に終始した。

数年前の同期会時に脳梗塞（小脳出血？）で倒れた時、周囲の人びとの話はよく聞こえていたが、全く発語できなかったので「悪口は云わないように」という体験談、世界中にいる多分自分の子供を巡ってさすらいの日々を送るといふ国際的な研究者（？）、NGO活動で発展途上国支援を行っている話等興味のつきない話題が多く、制限時間を大幅に延長してしまうほど活気にあふれたひと時であった。なお、応化会評議員からは応



清水先生を囲んで記念の一枚



話し終わってほっと一息

化会活性化についての状況報告とそのためにはOBの支援が欠かせないので是非協力をとの一幕もあり、次回の再会を約し、散会した。

今回幹事：山川典男、渡辺治道、白田正次郎（海外出張のため欠席）

次回幹事：国分可紀、高瀬 彰、南部 惇の各氏

参加者：市川嘉紀、門脇正敏、木村茂行、坂下勝平、重村義紀、下井将惟、相馬威宣、高瀬 彰、立元一彦、豊田常彦、萩原 幸、藤崎章男、二見厚、堀井紀良、松崎武彦、丸山征四郎、峰岸敬一、山川典男、山口達明、吉池鴻允、渡辺治道。

（文責：渡辺治道、撮影：渡辺治道、相馬威宣）



時間が気になる幹事諸氏

新制8回同期会

新制8回同期会新制8回（昭和33年卒）のクラス会が開かれました。

本年3月に仲間の平田彰教授の退職記念会が催され、それに多数（34名）の仲間が参加することになったので、毎年3月に開催しているクラス会を延期し、9月20日に大隈会館で開催した。出席者26名。

平田彰名誉教授の乾杯で始まった会は相変わずの和気藹々。出席者全員からの恒例の3分間スピーチ。数年前からこの会では「孫と病気」の話はしてはならないとのルールをつくったが、孫はともかく、病気の話は避けられない。それも皆さんが日頃、健康に気をつけておられ、その努力の話は聞いて差し上げなくてはいけないとお互いに思うようになってきた。

それにつけても、かつてはその業界に知らぬ者がないと言われたモサ連中が引退後の今は、書道を学び5段になった、ハーモニカの仲間で老人ホームや地域社会でボランティアの演奏会をしている、幼少者向けの教室に通ってバイオリンを習っている、身障者・高齢者向けにマージャンを楽しむ会のリーダーをしている、健康回復のため山歩きを始めてからすでに地球一周の半分の距離を歩いた、自宅で高齢者対象のパソコン教室を開いている、油絵を描き続けて定期的に銀座の画廊で個展を開いている、早稲田大学のオープンカレッジに通っている・・・との新しい生活の経過報告とともに、一方、現役のオーナー社長の一人が昨今のわが国の経済・産業活動が確実に景気上昇の方向に向かっているとの実感を語ってくれた。

また、欠席者26名からは返信はがきに近況が書かれており、出席者全員に回覧した。

約2時間半の会合も、瞬くお開きの時間となり、最後に校歌をテープの伴奏つきで、みな肩を組み、元気よく歌いあげた。

なお、クラス会の幹事は、毎回、持ち回りで代わり、今回は釘持忠男、熊本行男ならびに国原徹の3名が幹事をつとめた。

（2005・9・30記）

応化しい会（応化41年卒同期会）開催報告

平成18年2月17日（金）、前回と同じニュートーキョー スキヤ橋本店9Fラ・ステラにて、2年振りの同期会が開催された。小雪がちらつく空模様となった予定時刻の6時半には、当日欠席連絡のあった2名を除く20名が揃い、飲み放題、食い放題の立食パーティーが宮島幹事の司会でスタートした。

出席者と近況報告を添えた欠席者に10名の逝去会員を加えた住所録は、久しぶりに会う仲間達の良い潤滑剤となった。

乾杯の後、会を代表して植木彰君から一昨年亡くなった井伏昇三君の最期に係る報告があり、続いて出席者全員がそれぞれの近況や思いを次々に語った。多くの人達が自らの健康に配慮しつつ、

新しく始めた仕事について、あるいは旅行や音楽、菜園作業などの趣味の世界を熱く紹介し、楽隠居を決め込む雰囲気は何処にもなかった。又、応化会活性化活動の紹介に関連して会費納入をを促す発言も飛び出し、40年前の熱気を保って会は多いに盛り上がった。最後に川村剛君が永久幹事に推挙され、現役で活躍中の鶴丸健彦君の一本締めでお開きとなった。

今回幹事：風間弘志君、川村剛君、宮島猛男君

(文責 野本暢夫)



品川囲碁クラブ 第十四回2月度月例会の報告

今年の冬は殊のほか寒く冷えます。1月下旬から2月初旬は激寒のピークでした。寒さに影響されたのでしょうか。参加者は少なく6名でしたが、懇親会にはハイインテリジェンスの令夫人がお二人参加されて、計8名となり、懇親は大いに盛り上がりました。昭和30年後半の学生デモについてはそれぞれの経験話を語りあいました。

年初の計である女流プロ棋士をお呼びしてご指導を仰ぐ件については出席者全員賛成につき、具体的に進めることになりました。差し当たり、中島恵美子初段と新海洋子五段には鶴丸席亭が直接折衝することを決めました。

関西囲碁発足支援の件は、吉田さんが直接平沢さんに電話することを約束されました。品川の冬の夜に、イタリアの赤ワインをボトル2本、8人で分け合って飲み干し、全員いい気分で帰路につきました。極めて健康的な一日でした！

参加者：平田、吉田、豊田、岡本、岡本令夫人、鶴丸、鶴丸令夫人

(2006年2月 文責 下井将惟 新制13回)

応化36「ウロウロ会」

「ウロウロ会」とは、応化36年卒同期の囲碁同好会です。「烏鷲の争い」という囲碁の古語に因んでつけた名前です。そもそも、会結成は、約3年前、応化36同期会の折、4人で始めた次第。現在は会員20数名の多きを数え、昨年暮れの忘年会には、18名の参加があり、幹事一同喜んでいます。

この会は、現在は月例会となり、原則として、毎月第3金曜日に開催しています。会員の中には、会社退職後から始めて、3年で一級になった非常に熱心な方や、遠方の静岡県からの参加者もあります。

特に、対局後の懇親会は楽しみの一つで、中には、対局をパスしても懇親会には参加する人もいます。ますますの継続、発展を期待されています。

また、年間2回ほどは、出身会社の保養所などを利用して、囲碁とともにゴルフ・観光・温泉などを楽しむ会を企画し、これまで、箱根（仙石高原）、中伊豆（修善寺）、安房鴨川、安曇野（立山アルペンルート）への旅行を実現しました。

今年も会員一同、健康第一をモットーに、棋力アップに努めています。

(最近、三段・四段昇段者も出ています)



対局風景



懇親会

(2006年2月 文責：水瀬秀章)

わくわく会「わくわく会」(昭和36年卒業ゴルフ同好会)

還暦を遠く過ぎ、悠々自適(?)の生活を送っている応化会員にとって、晴天のもとで気の置けない級友と楽しくゴルフをできることは大きな喜びではないでしょうか。

我が「わくわく会」はそれを実践している会なのです。

昭和36年卒業同期の多くが現役を卒業した2000年11月に狭山ゴルフクラブで始めて同期会コンペを開催して以来、2005年11月に千葉県泉カントリー倶楽部でのコンペまで10回(雨天で午後中止を除き実質9回)を数えている。

2002年1月、第3回コンペのミーティング時に鈴木隆史、岩井義昌、清宮豊の3名が正式に幹事役に任命され、会の名称を早稲田応用化学の頭文字WACを「わく」と読み、これを重ねて「わくわく会」と命名しました。

この会名は同時に「わくわくと胸が躍る」、「惑々する」などをもじったものでもあります。2002年からは年2回を東京・神奈川地区と小田君、柴田君といった有力メンバーの居る千葉地区の交互開催が定常化しています。

参加人員は通常4組で15名程度、2006年からは5組に拡大する可能性もでてきているがスコアの方はハーフ30台を希に出す者が1、2名いる程度で、取り立てて触れることもありません。

同期全員で現在71名のうち、約4分の1の参加はかなりの割合であり、幹事としても手が抜けないう状況であります。

この会の特徴の一つに、田島君の提案による各種ペナルティ制度があります。

たとえば、バンカー入りやスリーパットは勿論のこと、バーディを取ってもペナルティといった具合に重さは違うものの10種類ほどのペナルティがあり、ホールアウト後に自己申告にて罰金を出し合いミーティング費用に充てるようにしている。

もう一つの特徴は、ミーティング後に必ず2次会(場合により3次会のカラオケまで)に行くことにしていることであります。こちらの方は自由参加ではあるが、これが楽しみで参加する者もいて、参加者は多い。

3年後に全員が古希を迎えるまで、健康維持に努めてこの活況を持続したいと思っているところであります。(2006年2月 記 清宮豊)

逝去者

三田 理	(工経6回)	2005年9月4日
高橋 誠一	(旧28回)	2005年10月13日
谷津 昇一	(新6回)	
木下 賤夫	(旧20回)	
鍛代 貴志	(新32回)	
山口 政教	(大2回)	2005年9月25日
高橋 章	(工経9回)	2005年7月6日
谷 八郎	(旧26)	2005年10月2日

勝屋 徹	(旧25)	2005年8月31日
高橋紘一郎	(新13回)	2005年1月
串田 弘	(燃2回)	2005年7月27日
小野 隆	(旧21回)	2004年
北中 清二	(新12回)	2004年
竹内 敏郎	(旧22回)	2004年12月31日
井伏 昇三	(新16回)	2004年
熊坂 浩	(工経12回)	2005年10月13日

「会費自動支払制度」登録のお願い

皆様には日頃より応用化学会の運営につきご協力賜り厚く御礼申し上げます。

皆様方には応化会の会費をお納め頂いていることご高承の通りですが、会費納入に際し「会費自動支払制度」をご利用頂くと、会費納入に際し郵便局へお出かけ頂く必要もなく、且つ年会費が2,850円となります。この際の「会費自動支払制度」への登録を応用化学会事務局を通してお願い致します。本制度の特徴は以下の通りです。

(1) 毎年4月18日に自動的に指定口座から引落としとなります。

(2) 全国の都市銀行、主要な地方銀行、信託銀行及び全国郵便局等の口座から自動支払が利用頂けます。

(3) 本制度をご利用頂いた場合には、年会費は年額2,850円となります。

尚、手続きについては、事務局までご連絡下さい。

応用化学会事務局 TEL: 03-3209-3211 (内5253)
FAX: 03-5286-3892
Eメール: oukakai@kurenai.waseda.jp

会員名簿のご案内

会員名簿(2003年版)を引き続き発売をしております。

応用化学会の会員名簿(2003年度版)は2004年2月に発行されましたが、まだ名簿も多数残っておりますので、ご希望の方はご購入下さい。頒布価格は、一般会員4,000円、大学院、学生は1,500円です。

申し込み方法

名簿購入ご希望の方は、この会報に挟んである郵便振替用紙に、名簿購入希望と記載して頂き、会費納入とは別に、名簿代として4,000円をお支払い下さい。

役員

(会長)

里見 多一

(副会長)

清水 功雄

長谷川吉弘

(監事)

本田 尚士

佐藤 一男

(庶務理事)

平沢 泉

大林 秀仁

(会計理事)

本間 敬之

(編集理事)

藤本 暁一

松方 正彦

(理事～学外)

池内 晴彦

井上 成之

坪井 彦忠

三田 宗雄

鶴岡 洋幸

倉持 誠

津田 信吾

峰島三千男

藤城 光一

赤田 正典

(理事～学内)

菊地 英一

酒井 清孝

竜田 邦明

逢坂 哲彌

西出 宏之

黒田 一幸

木野 邦器

桐村光太郎

菅原 義之

武岡 真司

編集後記

多くの会員の皆さまは、本誌をご覧になっておや？と思われたことと思います。従来の応用化学会報と比べてずいぶんとスリムになりました。昨年来会誌等でご報告して参りました通り、応用化学会では、活動の活性化と財政の健全化を両立すべく、活性化委員会委員の皆様を中心に様々な改革を試みてきました。会誌を含む会員の皆様との情報交換のあり方についても課題の一つでした。結論としては、新たな会員の皆様との情報交換の場としてWebサイト (<http://www.waseda-oukakai.gr.jp/>) を立ち上げ、会誌は総会のお知らせなど皆様との必要な情報の伝達、あるいは会員の皆様に興味をもって読んでいただけるような内容に絞り込んで、出版経費の削減を図ることとしました。当面、会誌の出版は年間に春号、秋号の2号を発行し、秋は従来からの通常版、春号は総会のお知らせ等を中心とした簡易版といたします。目標は、Webサイトと会誌が相互に補完し合っ
て学科と会員の皆様、あるいは会員の皆様同士の絆が深まるとともに、Webサイトの維持管理料と出版経費を合計が、従来の出版経費と同等程度となることです。現在のところは内容は削らずにさらに低コスト化、コンパクト化が必要な情勢です。会員の皆様におかれましては、上記の事情を御賢察いただきますとともに、会誌およびWEBサイトのあり方につきまして、事務局や各研究室のOB会などを通じて積極的にご意見を頂戴できましたら幸いに存じます。 (編集理事 松方正彦)

早稲田応用化学会報 通算73号 2006年 4月 発行

編集兼発行人 藤本 暁一・松方 正彦

発行所 早稲田応用化学会

印刷所 大日本印刷 (株)

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1 早稲田大学理工学部内

TEL (03)3209-3211内線5253 Fax (03)5286-3892

郵便振替0019-4-62921

E-mail:oukakai@kurenai.waseda.jp

<http://www.waseda-oukakai.gr.jp>
